

ビジネス宣教協力を担い支えるディアスポラ宣教協力

JCE5 プロジェクト「ディアスポラ宣教協力」
JCE6 プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」
ANRC (All Nations Returnees Connection)

1. JCE4(2000)～JCE5(2009)～JCE6(2016)における実績経緯

1) 日本オリジナルのディアスポラ宣教協力

- ① ローザンヌ運動の Issue/Diaspora は、「People on the move」の動向を受けローザンヌ世界宣教会議第 2 回 LCWE2(1989 Manila)の主要テーマになっていた。LCW3(2010 Cape Town)をめざし、Global Diaspora Network が形成され、Global Diaspora Forum が開催されてきた。この世界的な潮流に対し、日本国内におけるディアスポラ宣教協力は、日本伝道会議第 4 回 JCE4(2000 沖縄)でようやく主要テーマの一つとなり、第 5 回 JCE5(2009 札幌)をめざすアプローチが開始された。ローザンヌ運動ベースの包括的な宣教協力アプローチは、JCE4(2009)と LCWE3(2010)へ向かう準備過程で深められ、WEA/AEA/JEA ベースの宣教協力と並行してグローバルに推進されるようになった。
- ② JCE4(2000)～JCE5(2009)のロードマップにおける前半 5 年間、邦人宣教師派遣(OMF International、Wycliffe Bible Translations、アンテオケ宣教会など)、海外在留邦人とフォローアップ(海外日本語教会の OB 会や在欧日本人宣教会など)、留学生ミニストリーと帰国者フォローアップ(JCFN など)の 3 つのグループがあった。帰国者フォローアップを考える集い(2005.2.26 東京)を契機に、宣教協力の受け皿ネットワークが形成され、JCE5(2009)と LCWE3(2010)をめざし、後半 4 年間を含む 2010 年代に向けたアプローチが加速された。
- ③ ヨーロッパ・北米・アジア地域にわたる海外日本語教会や地域ネットワークを巡回してきた信徒有志により、ポータルサイト(Web ポータル)の DNJ online(Diaspora Network for Japanese 2005 公開 <https://dnjonline.org/>)が構築され、DNJ Forum を通して「**ビジネス宣教協力 Business As Mission(タスク)を担い支えるディアスポラ宣教協力 Global Diaspora Network(リソース)**」がハブとなる受け皿ネットワークが整備された。ディアスポラ宣教協力の主要課題は、移民・難民の受入要請を受けて、帰国者フォローアップから多文化共生社会における国際人・国際ファミリーの協働や受け皿ネットワークによる文脈共創へと変革された。更に、Urbana 2006 と同時期に JCFN から帰国者大会開催の要望があり、JCFN、DNJ、在欧日本人宣教会やアジア宣教フォーラム(2010～2015)などの受け皿を中核として、ANRC 09～ANRC10～ANRC12 が信徒中心の企画で推進された。これは、JCE5(2009)に先行し、JCE5 とは別枠の日本オリジナルの宣教協力アプローチとなった。2015 年以降、

JCFN(Japanese Christian Fellowship Network)主催の GRC(Global Returnees Conference <http://globalreturnees.org/grc18/index.php?lang=ja>)を展開し、ANRC(All Nations Returnees Conference)は ANRC(All Nations Returnees Connection <https://allnations.jp/>)に更改され ANRC Open Forum が展開されてきた。即ち、東京では、2005～2015 にわたり、ローザンヌ運動を通じた世界と日本の受け皿ネットワーク、アジア宣教フォーラムを通じたアジアの日本語教会受け皿ネットワーク、JEA 宣教フォーラム、ANRC Open Forum や GRC による国内の受け皿ネットワークが連携し、日本のオリジナルを世界へ情報発信する段階へ拡大された。

- ④ JCE6(2016)～JCE7(2023)： JEA 宣教フォーラムは JCE5 に向けたロードマップにおける展開として 2006 年以降開始された。東京と日本各地域の受け皿ネットワークとの情報共有と祈禱連携が年々拡大されてきた。次回 JEA 宣教フォーラム@九州(2019)では、世界からの留学生や在留外国人の増加、特に出入国管理法改正に伴う外国人労働者受入拡大を受け、日本国内において世界宣教を推進するべく、受け皿ネットワーク整備が加速されている。JCE6 で提案された包括的な宣教協力アプローチとして、グローバルな宣教協力に向けた受け皿ネットワーク整備が一層求められている。Tokyo2020～SDGs2030 に先駆けて、多文化共生社における防災と心のバリアフリーを深化させて行くことが求められている。

2) 被造物ケアに向けたビジネス宣教協力を担い支えるディアスポラ宣教協力

- ① ローザンヌ運動の Issue/Creation Care(2012)： 被造物ケアと福音 Creation Care and Gospel をテーマに、ジャマイカ行動への呼びかけ Jamaica Call to Action が 2012 年 11 月 9 日に宣言された。ローザンヌ世界宣教会議第 3 回 LCWE3(2010 ケープタウン)を経て、ローザンヌ運動(1974)と世界福音同盟(1846)が共催する被造物ケアネットワーク LWCCN が組成され、地域別会議が展開される起点となった。
- ② ローザンヌ運動の Issue/Creation Care に先行する日本オリジナル経緯(2010)： ローザンヌ世界宣教会議第 3 回参加の日本代表は、国連生物多様性条約締結国会議 COP10(2010 名古屋)が同時開催されていたため、ケープタウンでは最重要な祈禱課題として提起した。遡ると、Tokyo2020(東京オリンピック第 2 回)の主要テーマは「心のバリアフリー」であるが、Tokyo1964(東京オリンピック第 1 回)は「復興・再生」であり、マザーテレサの故郷スコピエ地震(1963)の復興・再生には日本の国際協力があつた、その当時からの複数世代にわたるバックグラウンドにより、受け継がれてきた包括的なビジネス宣教協力のアプローチがあつた。自然災害大国日本のリスク管理は、20 世紀に起こされ、21 世紀にはサイバーセキュリティーを含め、国民すべてに日常のインフラ要件として求められている。多文化共生社会における受け皿ネットワークの協働・共創による強靱な変革 Resilient Innovation は、内外標準として取り組まれている。アジアからの留学生は、災害・テロ、移民・難民・DV などの社会インフラ整備を緊急・重要課題として捉え、バリアフリーにも反平和にも挑戦している。

- ③ 「**被造物ケア Creation Care に向けたビジネス宣教協力(task)を担い支えるディアスポラ宣教協力(resource)**」は、DNJ online(2005)構築後の DNJ Forum において、歴史観と世界潮流をふまえ、日本の信仰の先輩から受け継がれた使命を覚え、自然災害大国日本、課題先進国日本、国際協力日本のオリジナルな包括的な宣教協力アプローチとして取り組まれた。ローザンヌ世界宣教会議第 3 回(2010 Cape Town)を経て、ローザンヌ運動の課題別枠組みである Diaspora、BAM, Marketplace Ministry, Creation Care などの個別受け皿へのアプローチが展開される中、関連 Issue が統合された地域業際ネットワークによる包括的な取り組みを提言し、広報外交による情報発信と祈祷連携を積み上げてきた。日本ローザンヌ委員会(2010～)は、アジアローザンヌ宣教会議(2011)、BAM Global Congress(2013)、Global Diaspora Forum(201(2015)、ローザンヌ・WEA 共催 LWCCN の東アジア地域会議(2017)、YLG/EA(2019)に参画した。2016 年以降は、LWCCN/EARC 企画委員会にも参画した。「国際協力を通じた宣教協力」には多文化共生社会における隣人チームワークが求められるため、Lausanne Issue の受け皿連携につながり、包括的な宣教協力アプローチの次世代アーキテクチャーとして文脈共創される意義は深い。そこで、ローザンヌ・アジア宣教会議 Asia Lausanne やローザンヌ世界宣教会議第 4 回(2024 以降)に向け、協働・共創の提案を拡大させたい。
- ④ 震災・テロからの復興・再生や未来開拓は、産学官連携によるインフラ技術ネットワーク、地域経済ネットワーク、国連活動ネットワークによる未来 2030/2050 を予測した開拓と国際協力により牽引されている。ビジネス宣教協力は、国際平和につながる国際協力を支えるものとして進展している。
- ⑤ 超教派ミニストリーや教会活動は、それを担い支える国際人・国際ファミリーの受け皿ネットワークとして機能している。そして、従前の宣教団体、宣教師支援ネットワークとは異なる多様なアプローチを推進している。国連や自治体、NGO/NPO/CSO など社会変革・未来貢献を先行して取り組んでいる受け皿ネットワークに対し、ローザンヌ運動の課題別枠組みは、未来を予測し変革する要件と開拓事例を捉えている。
- ⑥ 〔総括〕自然災害大国日本では、震災復興は多文化共生社会における共通インフラ要件であり、行政と連携した地域業際ネットワークやボランティア、国際 NGO が先行して課題解決に取り組んでいる。教会は心のケアと祈祷連携を中核に、行政のフォローアップを推進している。宣教師も教役者も信徒も、ビジネス宣教協力を各々推進しており、世界の変革動向に対する知見は、受け皿ネットワークによりキャッチアップされているが、その視点や範囲は大幅に異なっている。ディアスポラは海外に散らされた人々のイメージがあるが、国内に散らされたケースも増大している。また、移民・難民の受け入れ、内外を移動する人々の増加により、帰国者フォローアップのイメージは 2010 年頃払拭され、「多文化共生社会における受け皿ネットワーク整備と文脈共創に如何に取り組むか」に変遷している。

3) 宣教協力の受け皿ネットワーク

- ① ローザンヌ運動：日本ローザンヌ委員会(JLC <https://www.lausanne-japan.org/>)
- ② WEA/AEA/JEA：JCE & JEA 宣教フォーラム、Japan Overseas Mission Association(JOMA <http://joma.hope8.net/>)、Japan Evangelical Mission Association(JEMA <http://www.jema.org/>)
- ③ 宣教団体や宣教グループ：OMF International(formerly Overseas Missionary Fellowship and before 1964 the China Inland Mission <https://omf.org/>)、Wycliffe Bible Translations(<https://www.wycliffe.org/>)、アンテオケ宣教会(<http://jantiochm1977.net/>)、在欧日本人宣教会(<http://www.joutreach.org/>)など
- ④ NGO/NPO：公益財団法人 東南アジア文化友好協会(NGO SAFCA <http://safca.tokyo/index.html>)、国際 NGO Side By Side International(SBSI <http://side-by-side-intl.org/>)、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS <http://www.jocs.or.jp/>)など
- ⑤ ANRC (All Nations Returnees Connection)
- ⑥ 海外日本語教会の地域ネットワーク：ヨーロッパ・キリスト者の集い(<https://www.europetsudoj.net/>)、SLIM Conference(<https://www.slimconference.org/home-1>)、アジア宣教フォーラム(<https://asia-mission-forum.blogspot.com/p/top.html>)、東海岸日本語教会合同ファミリーキャンプ、東海岸日本語ユースキャンプ(<https://higakyan.jimdo.com/ひがきゃんとは-what-s-higakyan/>)など

4) 日本ローザンヌ委員会

- ① Issue(BAM、Workplace Ministry、Diaspora、Creation Care、Ethnic Ministries など)への日本グループ参加と開拓事例情報発信：JCE6 プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」として、ALCOE7(2011 Ulanbator)、CCCOWE(2011 Bali)、BAM Global Congress(2013 Chiang Mai)、Global Diaspora Network(2015 Manila)に参加実績有。
- ② LCWE3(2010)～LCWE4(2024)への日本グループ参加と開拓事例情報発信

5) JEA 宣教フォーラム

- ① 宣教フォーラム(2006 東京、2007 東京、2008 東京、2010 名古屋、2011 秋田、2012 仙台、2013 郡山、2014 東京、2015 大阪、2017 神戸、2018 名古屋、2019 博多)における分科会 Workshop 実施
- ② ディアスポラが担う仕事(タスク)の対象範囲は、多文化共生社会におけるコミュニケーションの仲介役 Bridge Builders として、ビジネス宣教協力の全領域に拡大
- ③ ディアスポラ(リソース)対象範囲は、帰国者中心から国際人・国際ファミリーを中核とした次世代育成フォローアップへ拡大

- ④ ディアスポラによる内外プロジェクトへの参画

6) ANRC の拡大支援

- ① All Nations Returnees Conference の拡大支援(2009, 2010, 2012)
- ② All Nations Returnees Connection への受け皿拡充(2015～) : JCE6 プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」のテーマ展開について、ANRC Open Forum の受け皿ネットワークで受け入れ、情報発信している。
- ③ ポータルサイト : <https://allnations.jp/>

7) アジア宣教フォーラム

- ① 基本構想 : JCE5 の分科会「ディアスポラ宣教協力」の施策「欧米圏にわたる地域・業
際ネットワークの拡大」として、アジア日本語教会の受け皿ネットワークを組成する。
- ② 信徒の異動、特に外々異動の
- ③ フォローアップに関する受け皿連携(香港、ベトナムなど) Cf. 激励(I コリント 10:13)
- ④ 日本語教会の未開拓国・地域へのアプローチに関する受け皿連携
 - ・南アジア(インド、スリランカ、バングラデシュ、ネパール、パキスタンなど)
 - ・中近東(トルコ、ドバイなど)Cf. 欧州(ポーランド) : 在欧日本人宣教会で提案(2019 総会時に提案)
- ⑤ 日本やアジアのビジネス宣教協力(BAM, Business As Mission)に関する受け皿連携
(GDN, Global Diaspora Network) : 国際協力、テロ・震災復興・再生など
- ⑥ ローザンヌ運動のアジア地域宣教協力における日本の開拓事例情報発信
- ⑦ 第 1 回(2010 香港)、第 2 回(2012 ソウル)、第 3 回(2014 シンガポール)に続く、
第 4 回(2020 以降)の企画
- ⑧ ポータルサイト : <https://asia-mission-forum.blogspot.com/p/top.html>

8) アジア日本語教会ファミリーキャンプ

- ① 第 1 回(2011 バリ)、第 2 回(2013 ソウル)、第 3 回(2015 シンガポール)の実績
Cf. 田内千鶴子(1921-68) http://www.chizuko100th.com/who_chizuko.html
- ② 各国・地域での開催へ委託

2. JCE6(2016)～JCE7(2023)のオリジナル企画の予実績への照会

1) ディアスポラ宣教協力の要件

- ① JCE5(2009)～JCE6(2016)～JCE7(2023)のプロジェクト展開 : JCE6 は JCE5 からの
7 年実績をふまえ JCE7 への 7 年企画が開始されている。JCE6～JCE7 のロードマップ
の中間地点(前半 3 年を経て後半 4 年を展望する局面)において、JCE6 プロジェクトの
中間報告が取りまとめられた。受け皿のヒューマン・リソースの刷新により、引継事項
を中断し新規取組み推進するケース、引継事項を中断し新規取組みも行わないケースな
どが発生し、またプロジェクト間連携が進み難い状況もあり、プロジェクト管理全体の
見直しが求められている。一方、引継事項のフォローアップと新規取組みを並行推進す

るケースでは、前半 3 年実績で短期目標の成果が仕上り、JCE8(2030)の長期目標に向けて JCE7(2023)の中期目標(4+7=11 年間)を推進するケースも起こされている。JEA 宣教フォーラム@九州において、本部要件、九州の地域要件と JCE7 開催地東海の地域要件を捉え直し、プロジェクト管理・運営を見直して行くことが期待される。

- ② JCE5(2009)~JCE6(2016)~JCE7(2023)のテーマ展開：JCE6 のテーマ「再生への Re-VISION~福音・世界・可能性」について、各プロジェクトの個別展開をふまえ、プロジェクト間協力による包括的な展開が並行推進され、然るべき結実やインパクトがもたらされることが期待される。そこで、後半 4 年に向け、テーマのカテゴリー別展開と包括的な展開に切り替え、プロジェクト企画を更改し後半 3 年に取り組む、更に 1 年は JCE7 プロジェクト企画を準備する方向で取り組むことが期待される。
- ③ JCE6(2016)~JCE7(2023)~JCE8(2030)：JCE7 は JCE6 からの 7 年実績をふまえ JCE8 への 7 年企画が開始される。JCE8(2030)は、特に MDGs(2000~2015)+SDGs(2016~2030)が世界に先行して提示されており、更に LCWE4(2024 以降)があり、それらとの整合が認識され反映されることが期待される。
- ④ JCE6 プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」は、JCE4~JCE5~JCE6~JCE7~JCE8 へ展開されている「被造物ケアに向けたビジネス宣教協力を担い支えるディアスポラ宣教協力」の一環として取り組まれている。その目標は、「未来 2020/2030/2050 をめざし、多文化共生社会における共存・協働により、社会変革・未来貢献を担う次世代グローバル人材を支える宣教協力」である。実際、未来 2020 目標実績が提示でき、未来 2030/2050 目標へと展開されている。一方、JCE6「ディアスポラ宣教協力」は、JCE5「ディアスポラ宣教協力」の従前路線とは異なり、「ディアスポラ宣教」について認知度を広めること、神学的・宣教学的理解を深め協力者のネットワークを構築しリーダーを養成すること、日本の教会による宣教に貢献することの 3 点となっている。が、具体的な目標が提案されていないため、成果を評価し難い状況にある。JCE4~JCE5~JCE6 を通して構築された地域受け皿との連携、Lausanne Issue/BAM や Lausanne Issue/Diaspora の受け皿との連携は中断状況にある。JCE6 プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」と JCE6「ディアスポラ宣教協力」は、JCE6~JCE7 における「ひろばグローバル」の参加を通して宣教事例を情報共有しているため、宣教協力の方法やスピードが異なるものの、受け皿ネットワークの連携 chemistry を一層加速させることが求められる。

2) NGO /NPO 協力の Creation Care Forum(2019~)

- ① NGO /NPO 連携の開拓事例は、JCE6 プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」の一環として、JCE6~JCE7 における ANRC Open Forum や NGO“SAFCA”主催 Creation Care Forum で既に展開されている。アジアから日本への公費留学生をフォローアップする NGO として、自然災害大国日本の多文化共生社会における災害対応や DV 対応の知見を把握し、受け皿ネットワークとして活かし、帰国後の出身国や地域社

う r 会へ適用することを支援している。留学生や卒業生は、隣人チームワーク Team building activity (Muslim, Hindu, Buddhist, Christianity など)を形成し、各々の地域・業際ネットワークを通して各々が取り組むモデルケースを提案している。 自然災害やテロ、医療やサイバーセキュリティCyber security などの緊急重要課題について Muslim は Muslim の世界で Hindu は Hindu の世界で、国連モデルや Christianity モデルを参照し各々が取り組む中で、次世代アーキテクチャーの協働・共創をめざしている。

- ② 受け皿ネットワークによる隣人チームワークの文脈共創として、NGO /NPO 連携の Creation Care Forum では、カンボジア、ラオス、バングラデシュの医療支援を担ってきた知見を情報共有し、ヒューマン・リソースのネットワークを拡大している。

3) ディアスポラ宣教協力の重要課題に対するアプローチの実態

- ① ディアスポラ宣教協力の対象範囲は、国際人・国際ファミリーを中核としたフォローアップへ拡大されている。が、移民・難民や技能研修生受入などの社会問題が明らかになっているにも係わらず、先行する行政の受け皿ネットワークとの連携が深化せず、結婚式とお葬式のセレモニー機能を担うレベルに留まっていることが懸念されている。行政と地域・業際コミュニティ(教会を含む)の受け皿ネットワークや分担についての知見が乏しいこと、情報セキュリティの点で情報共有が困難なことがあり、アプローチの更改には至っていない。埼玉県では異文化共生社会の事例が多くあり、地域教会からの取組情報共有が期待されている。これは、スポーツ訓練 workout と同様、知見自体が逐次更改されて行くことが求められる。
- ② アジアの宣教協力は、従前では、東アジア中心アプローチであったが、21 世紀は東南アジアや南アジアへのアプローチが拡大しており、東アジアとう梓組自体の見直しが求められている。
- ③ 日本におけるディアスポラ宣教の認知度を広める：既に認知されていることの定義や範囲が変化しており、取組方法の多様化に対処しかね対応を控えるケースが増加しており、実態の変化や知見にギャップが生じている。
- ④ 神学的・宣教的理解に基づく協力者ネットワークを構築し、リーダーを養成する：既に多様な受け皿ネットワークが構築されている中、新たな協力者ネットワークを構築する意味は何か？ 養成されるリーダーの定義や範囲、その方法の具体化が不明で、成果目標が不明？
- ⑤ 日本の教会による宣教に貢献する：日本語を話す在留外国人宣教への取組方法や成果目標が不明？ 海外の日本語教会へのフォローアップが機能に入っていない理由は何か？ JEA の JOMA や JEMA との協力・連携が、具体化されていない？ ローザンヌ運動の Global Diaspora Network への参加がなく、内外動向との整合が取られていないため、知見の更新状況が懸念される。

4) 海外の日本語教会ネットワークとの窓口

- ③ 海外の日本語教会からの情報共有は、展開されている？
 - ④ JCE6 プロジェクト「ディアスポラ宣教協力」からの情報発信は、ひろばグローバルでなされる？
 - ⑤ 新規開拓：India(New Delhi, Mumbai/Pune, Chennai, Bangalore)、Poland(Warsaw)、Hungary(Budapest)
- 5) JCE6 プロジェクト間連携
- ① ひろばグローバルへ参加：プロジェクトからのコメントはあるが、提案はない？
 - ② JCE6 プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」からの提案(19/9/20)には、概ね合意となったものの、具体的な推進は受け皿見直し後の展開によるか？

3. 宣教協力のイベント経緯

- 1) 日本伝道会議第4回 JCE4(2000 沖縄)～第5回(2009 札幌)～第6回(2016 神戸)～**第7回(2023 名古屋)～第8回(2030 未定)**
- 2) 帰国者フォローアップの集い(2006/02 東京)
- 3) Diaspora Network for Japanese Forum 第1回(2006 東京)
- 4) All Nations Returnees Conference 第1回(2009 熊谷)～第2回(2010 熊谷)～第3回(2012 掛川)
- 5) JEA 宣教フォーラム(2010 名古屋、2011 秋田、2011 仙台、2012 郡山、2013 東京、2014 2015 大阪、2017 神戸、2018 名古屋、**2019 博多、2020 未定**)
- 6) アジア宣教フォーラム第1回(2010 香港)～第2回(2012 Seoul)～第3回(2014 Singapore)～第4回(2016 東京)
- 7) アジア日本語教会ファミリーキャンプ第1回(2011 Bali)～第2回(2013 Seoul)～第3回(2015 Singapore)
- 8) Global Returnees Conference 第1回(2015 富士)～第2回(2018 富士)
- 9) ローザンヌ世界宣教会議第3回 LCWE3(2010 Cape Town)～**第4回(2024 未定)**
- 10) アジアローザンヌ宣教会議第7回(2011 Ulan Bator)
- 11) Global BAM Conference(2013 Chiang Mai)～**(2020 Thailand)**
- 12) Global Diaspora Forum(2015 Manila)
- 13) Lausanne WEA Creation Care Network/East Asia Conference(2017 台湾)
- 14) Kizuna Festival(2016, 2018, 2019, **2020 Phnom Penh**)
- 15) ANRConnection Open Forum 第1～7回(2016, 2017, 2018, 2019 東京)～**第8～10回(2019, 2020 東京)**
- 16) ひろばグローバル(2017, 2018, **2019**)
- 17) SAFCA/Creation Care Forum(2019 東京)